

J Aにおける自己改革および SDGsの取り組み事例

《J A広報誌およびJ A自己改革ニュース》

R 7 / 7 ・ 8 ・ 9 月分



令和7年9月

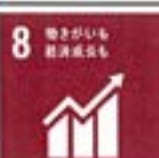


J A 青森中央会



THE GLOBAL GOALS

【17の目標にかかるロゴマークとそれぞれの目標の解説】

目 標			
 1 貧困をなくそう	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる	 2 飢餓をゼロに	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
 3 すべての人に健康と福祉を	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	 4 質の高い教育をみんなに	すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
 5 ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う	 6 安全な水とトイレを世界中に	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する	 8 働きがいも経済成長も	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する
 9 産業と国家戦略の調和をつくる	強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る	 10 人や国の不平等をなくそう	各国内及び各国間の不平等を是正する
 11 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する	包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する	 12 つくも消費 つかう責任	持続可能な生産消費形態を確保する
 13 気候変動に具体的な対策を	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる	 14 海の豊かさを守ろう	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
 15 陸の豊かさも守ろう	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する	 16 平和と公正をすべての人に	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
 17 パートナリーシップで目標を達成しよう	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する		

SDGsの17の目標は、各JAにおける取組みを通じてすべての目標の達成に貢献できる可能性があり、1つの取組みを通じて複数の目標達成を実現するなど、相互に関わりあう内容となっています。

目次

ページ	J A 名	自己改革・SDGsの活動・取り組みの名称	関連するSDGs目標			広報誌掲載号
1	つがるにしきた	常勤役員 担い手を巡回 にんにく収穫期（講習会） 大玉トマト、ミニトマト出荷説明会 日本航空 りんごの仕上摘花を手伝う 農業生産の拡大 地域の活性化	4 質の高い教育を みんなに 	12 つくる責任 つかう責任 	17 パートナリーシップで 目標を達成しよう 	2025年7月号
2	ごしょつがる	中央小学校でバケツ稲体験 花いっぱい彩って（花いっぱい運動） 根張りに注意（栽培講習会） 新規就農者を巡回訪問 地域の活性化 農業生産の拡大	4 質の高い教育を みんなに 	11 住み続けられる まちづくりを 	12 つくる責任 つかう責任 	2025年7月号
3	つがる弘前	JA中標津Aコープ中標津店「あるる」初 出店 弘前コーヒーフェスティバル初出店 援農ボランティア実施 地域の活性化 農業者の所得増大	8 働きがいも 経済成長も 	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう 	17 パートナリーシップで 目標を達成しよう 	2025年7月号
4	相馬村	りんご販売担当者会議 雪害見舞金の贈呈式 わい化研究会 青空教室 第3回巡回講座 農業者の所得増大 農業生産の拡大	2 気候を ゼロに 	4 質の高い教育を みんなに 	11 住み続けられる まちづくりを 	2025年7月号
5	津軽みらい	青天の霹靂栽培講習会 航空会社社員が農作業を応援 スピードスプレーヤー安全運転講習会 「#あおばな」で県知事と対話 農業者の所得増大 農業生産の拡大	4 質の高い教育を みんなに 	11 住み続けられる まちづくりを 	12 つくる責任 つかう責任 	2025年7月号
6	十和田おいらせ	よいしょ！大きなにんにくを掘り取れ （児童の農業体験） 地域一体で農産物盗難ゼロへ ピーマン目ざろえ・栽培講習会で有利販 売へ 地域の活性化 農業生産の拡大	1 貧困を なくそう 	4 質の高い教育を みんなに 	11 住み続けられる まちづくりを 	2025年7月号
7	ゆうき青森	スマホ教室 基礎から応用学ぶ ながいも洗浄検査 出荷規格確認 キャベツ講習会 栽培管理学ぶ 地域の活性化 農業者の所得増大	2 気候を ゼロに 	4 質の高い教育を みんなに 	12 つくる責任 つかう責任 	2025年7月号
8	おいらせ	JA共済事業推進大会にて表彰 JAおいらせ杯少年少女スポーツ大会 入賞チームへ米を贈る 地域の活性化	3 すべての人に 健康と福祉を 	8 働きがいも 経済成長も 	17 パートナリーシップで 目標を達成しよう 	2025年7月号
9	八戸	ねぎ 葉面散布剤活用し生育促進へ にんにく 適期収穫を呼びかけ 第1回農政対策委員会開催 農業者の所得増大 農業生産の拡大	1 貧困を なくそう 	2 気候を ゼロに 	4 質の高い教育を みんなに 	2025年7月号

目次

ページ	J A 名	自己改革・SDGsの活動・取り組みの名称	関連するSDGs目標			広報誌掲載号
10	ごしょつがる	関電直播の水田確認 中学生がメロン選果を体験 五農生 J A 業務を肌で感じる 地域の活性化 農業生産の拡大	2 飢餓をゼロに 	4 質の高い教育をみんなに 	11 住み続けられるまちづくりを 	2025年8月号
11	つがる弘前	「ちゃぐりん」寄贈 「農業の魅力発見！」親子で楽しく収穫体験開催 ゆっくりウォーク～歩いて巡る旅～開催 地域の活性化	3 すべての人に健康と福祉を 	4 質の高い教育をみんなに 	12 つくる責任 つかう責任 	2025年8月号
12	相馬村	清水森ナンバ出荷 リンゴ放任園の対策 ブルーベリー親子収穫 わい化栽培研究会 夏期研修 地域の活性化 農業者の所得増大	2 飢餓をゼロに 	4 質の高い教育をみんなに 	15 陸の豊かさも守ろう 	2025年8月号
13	津軽みらい	令和6年産りんご精算報告会 青年部 J A 役職員と語る会 A コープ商品を使用した料理教室 農業者の所得増大 農業生産の拡大	2 飢餓をゼロに 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	11 住み続けられるまちづくりを 	2025年8月号
14	十和田おいらせ	鳥獣害対策に電気柵設置 キュウリ収穫本格化 台湾の中学生とニンジン堀りで交流深める 地域の活性化 農業者の所得増大	10 人や国の不平等をなくそう 	11 住み続けられるまちづくりを 	13 気候変動に具体的な対策を 	2025年8月号
15	ゆうき青森	年金友の会ゲートボール大会開催 トマト出荷進む 最盛期前に説明会 県民対話集会「#あおばな」開催 地域の活性化 農業生産の拡大	2 飢餓をゼロに 	3 すべての人に健康と福祉を 	12 つくる責任 つかう責任 	2025年8月号
16	おいらせ	長いもの選果施設を見学 上久保小学校にんにくの坪堀り調査 若手職員農業体験 地域の活性化 農業生産の拡大	2 飢餓をゼロに 	4 質の高い教育をみんなに 	8 働きがいも経済成長も 	2025年8月号
17	八戸	農家の労力軽減 ドローンで薬剤散布担う ピーマン 整枝のポイント学ぶ ねぎ 選果しっかりと 農業者の所得増大 農業生産の拡大	1 貧困をなくそう 	2 飢餓をゼロに 	4 質の高い教育をみんなに 	2025年8月号
18	ごしょつがる	ネギ品質そろえて出荷へ リンゴの季節到来 農業者の所得増大 農業生産の拡大	2 飢餓をゼロに 	11 住み続けられるまちづくりを 	12 つくる責任 つかう責任 	2025年9月号

目次

ページ	J A 名	自己改革・SDGsの活動・取り組みの名称	関連するSDGs目標			広報誌掲載号
19	つがる弘前	J A つがる弘前公式LINE運用スタート 高齢者福祉活動「ぬくもりホーム」開催 食と農の大切さを伝える農業塾開催 地域の活性化 農業生産の拡大	3 	4 	9 	2025年9月号
20	相馬村	巡回講座開催 相馬こども園からのご招待 お山参詣について学ぶ 地域の活性化 農業生産の拡大	2 	4 	17 	2025年9月号
21	津軽みらい	家の光・女性部大会・健康講座 青天の霹靂刈取講習会 柏農高協賛会に寄付 地域の活性化 農業生産の拡大	3 	4 	11 	2025年9月号
22	十和田おいらせ	J A のこともっと知って！ 旬のトマトたくさん食べて！ ふれあいまつりで交流深める 地域の活性化 農業生産の拡大	1 	11 	12 	2025年9月号
23	ゆうき青森	にんにく出荷督励 ながいも防除 ドローンで省力化 親子でパフェづくり 女性部主催 地域の活性化 農業生産の拡大	2 	3 	12 	2025年9月号
24	おいらせ	地域感謝祭 開催 アンパンマンと交通ルールを学ぼう 地域の活性化	4 	11 	12 	2025年9月号
25	八戸	ながいも 病害虫防除の徹底を にんにく 趣旨の選定と圃場の準備しっ かりと 桃 適期収穫のポイント学ぶ 農業者の所得増大 農業生産の拡大	1 	2 	4 	2025年9月号
26	J A 北新潟 (新潟県)	米農家への指導がより迅速に 全国初 JAで栽培管理支援システム「ザ ルビオ」を導入 農業者の所得増大 農業生産の拡大	9 	11 	12 	JA全中HPより引用

5/26、5/27
6/13



常勤役員 担い手を巡回

「組合員の声を聴く活動」をさらに推進するため、常勤役員は5月と6月、担い手の巡回を行いました。5月はりんご農家70件、6月は米農家146件回り、JAへの出荷を呼びかけました。

生産者から頂いた意見を今後の事業に反映していけるよう今後も努めていきます。



生産者の巡回を行う山中組合長



6/18



にんにく収穫期

にんにく収穫適期講習会を富苑事業所管内、つがる支店管内、つがる白神支店管内で行いました。全農の担当者は「生きている葉の残り枚数が6枚より少なくなった時が収穫の判断目安」と話し、収穫適期のポイントを説明しました。

高温や降雨の影響で収穫を早める生産者が多くみられ、6月16日頃から6月26日の間に収穫を行う方が多くみられました。



試し掘りを行ったにんにく



根切り作業中

6/17
6/24、6/25



大玉トマト、ミニ トマト出荷説明会

大玉トマト、ミニトマトの出荷本格化に向け、販売についてさらなる向上を目指すべく、出荷説明会を開催しました。

カラーチャートを用いて、収穫や市場に到着した時点での着色を確認しました。今後、30度以上の高温が予想される場合は、通常のかん水の他に、午後にも追加でかん水し、葉面散布の実施や病害虫防除を徹底するよう呼びかけました。



市場とミニトマトの着色基準を確認する、つがる管内の生産者



トマトの規格を確認する深淵の生産者

6/24～
6/26



日本航空（JAL） りんごの仕上摘果を手伝う

日本航空株式会社のパイロットやCAによる援農活動を受け入れました。JALの社員は、有給休暇を取り毎年県内のりんご園地を訪れていて、人手不足に悩む農家の手助けを行っています。

今回はつがる市柏地区の菊池勝衛さんのりんご園地で仕上げ摘果を行いました。普段CA業務を行っている本澤ひこ乃さんは「青森に来るのを毎回楽しみにしている。責任重大な仕上げ摘果をさせてもらえるのは嬉しい」と話していました。



摘果を楽しむパイロット



仕上げ摘果を教わるJALの社員



6月3日

中央小で バケツ稲体験



バケツに優しく苗を植え付ける児童

五所川原市立中央小学校5年生81人は、総合的な学習の時間でバケツ稲作体験を行いました。米穀課の工藤康子係長と成田涼農指導員が、植え付けのポイントを指導しました。

児童らは、事前に牛乳パックで芽出し、育苗してきた苗をバケツに植え付けました。成田指導員は「水を切らないように管理し、おいしいお米を作ってください」と呼びかけ、体験を締めくくりました。

児童らは今後、J Aの米関連施設の見学なども行い、米作りへの理解を深める予定です。

6月4日

花いっぱい 彩って



花壇にニチニチソウを植える女性部員

女性部は、「花いっぱい運動」と題して花を植える活動を行っています。この活動は、J A敷地内の景観を保ち、より地域住民から親しみを持ってもらうことを目的に、毎年実施しています。

この日は6人の部員が参加し、色とりどりのニチニチソウを本店の花壇に植えました。7日には木造総合支店の花壇にも同様に植え付けし、きれいに彩られました。

女性部員によって整備された花壇は地域住民にも評判が良く、木村幸子女性部長は「地域住民が気持ちよく来店してもらえるように、長くきれいに咲くように手入れしていきたい」と意気込みを話しました。

6月4日

根張りに 注意



熱心に講師の説明を聞く部会員

ねぎ部会は、木造総合支店で栽培講習会を開きました。5月の定植期に雨が多く、根の酸欠状態から根腐れの発生リスクが高く、高温期を乗り切るためには、ネギの根張りに注意するよう呼びかけました。

講習会には、部会員10人が参加し、収穫期までの栽培管理を確認しました。

講師を務めたサカタのタネの赤根勘人さんは「葉色など葉の状態に合わせて土寄せするタイミングを見極めてほしい」とアドバイスしました。

6月11日

新規就農者を 巡回訪問



土壌改良について質問する木村さん④

つがる市では、新規就農者支援事業を行っています。年に1度、支援を受ける新規就農者の巡回訪問を行っており、経済課の営農指導員が同行しました。

この日は、メロン、スイカ、ネギなどつがる市の主力農産物を作付けする新規就農者4人の農場を訪問し、生育状況や農作業での困りごとなどを聞き取りました。

就農2年目でメロンを栽培する木村悟さんは「昨年よりうまく防除できている」と安堵の表情を浮かべていました。





「JAつがる弘前」知名度向上に向け 消費宣伝活動強化中



5/17-18

JA中標津 Aコープ中標津店「あるる」初出店

北海道にあるAコープ中標津店「あるる」で、JA中標津の協力のもと、りんごの店頭販売を行いました。りんごまつりと称して、ふじ、王林、シナノゴールドの詰め放題、りんごジュース「林檎四季」のほか、桃ジュース「つがるの桃色」を販売しました。りんごは見事に完売し、「試食したら、絶対に購入したいと思う美味しさ」「食感も味も最高」などと嬉しい感想をたくさんいただきました。



5/31、6/1

弘前コーヒーフエスティバル
初出店

今年弘前市で初めて開催された「弘前コーヒーフエスティバル」に出店しました。コーヒー愛好者を増やす目的のほか、地元農産物の魅力発信や地域活性化を趣旨に掲げているイベントです。

弘前市追手門広場で開催されたイベントには、県内各地からコーヒESHOPをはじめ、フードやスイーツを楽しめる飲食店が多数出店しました。当JAは、炭火で焼いた炭きみや、りんごふじとシナノゴールドのほか、りんごジュース「林檎四季」はれわたる3008(2合)を販売しました。



5/26-28

援農ボランティア実施

弘前東支店が事務局を務める「援農会」会員8人の園地で、陸上自衛隊弘前駐屯地の隊員による援農ボランティアが行われ、3日間75人の隊員が参加しました。この援農ボランティアは、弘前駐屯地が開庁した翌年の昭和44年から始まり現在に至ります。

27日、「援農会」尾崎寿一会長の園地で、菅沼文洋弘前駐屯地司令をはじめ隊員たちは、りんごの摘果作業を行いました。東地区営農



係の三上係長が、りんごの生育状況や摘果作業の重要性、作業方法を説明しながら実演しました。作業を行った隊員は「少しでも労働力になれば」「援農ボランティアが、地域住民の一助になれば」と話しました。

りんご販売担当者会議



6年産りんごについてお礼を述べる

6月3日、本所フルーツステーションにおいて取引市場18社、全農あおもりを招いて「りんご販売担当者会議」が開催されました。大場組合長より昨年度のりんご販売に対してのお礼とこれから販売する有袋ふじやシナノゴールド、有袋ジョナについて引き続きお願いしたいと挨拶をしました。

東京青果株式会社訪問実部部長より令和6年産の状況と令和7年産への販売についての抱負を述べて頂きました。

雪害見舞金の贈呈式



雪害から回復に向けて受け取りました。

6月5日、当農協役員室にJA青森中央会の乙部雄雄会長が訪問されました。

昨年からの続く記録的な豪雪の影響は、青森県に深刻な被害をもたらせました。相馬地区も例外ではありません。

このような雪害による被害の復興支援のために、当農協の大場組合長に見舞金の目録を手渡されました。

「大事に使わせていただきます。」と述べられました。

わい化研究会
青空教室



実すぐりを学ぶ生産者

6月9日、相馬村わい化栽培研究会において、県りんご剪定士の3名を講師として招き、夕方青空教室を実施し、23名が参加しました。

農業振興課職員より今年の生育状況の説明を受け、2月に剪定セミナーが行われた園地で摘果作業や新たに植えた苗木の作業進行について実体験を交えた講義が行われました。研修に参加した中嶋美保子さんは、剪定セミナーと摘果講座が同園地で行うことで経過を直接見ることで、その後の作業をどのように進めるかが理解しやすかったと述べていました。

第3回 巡回講座



日頃の感謝と
りんごの精算状況について話しました。

6月16日、管内12ヶ所で巡回講座を実施し、103人の生産者が参加しました。

農業振興課からは今後の作業や病害虫対策、極早生品種における収穫前の薬剤散布について説明があり、普及振興室からは熱中症対策についての情報が提供されました。

全農あおもりからはニュージラント産りんごの売り場が広がり、青森県産りんごの売り場が狭くなっている現状について述べられました。

最後にJA常勤役員からは6年産りんごの生産動向と晩生種の精算についての説明がありました。

今回は8月を予定しています。

青天の霹靂栽培講習会



7月4日、尾上地区、常盤地区、で水稻の栽培講習会が開かれました。

講習会には、各地区の水稻生産者が参加し、令和7年産米の生育状況や今後の栽培管理、追肥時期などを確認しました。



常盤地区
青天の霹靂栽培講習会



板柳地区
水稻追肥現地講習会

航空会社社員が農作業を応援



日本航空株式会社（JAL）の社員2人は6月10日から12日、「農作業応援活動」のためJAL津軽みらい管内のりんご園地を訪れ、摘果作業を行いました。

参加した社員は、以前にもりんごの摘果作業を行った経験があり、慣れた手つきで作業を行いました。「豪雪被害の状況を聞いて、少しでも生産者の力になりたいと思いました。短期間の応援だが、これまで以上に頑張りたい」と話しました。



摘果作業を行う航空会社の社員

スピードスプレーヤー安全運転講習会



みなみ地区りんご共同防除連絡議会（田中祐一会長）は6月24日、JAL本店でスピードスプレーヤーの安全運転講習会を開き、約60人が参加しました。

講習会では、農業・食品産業技術総合研究機構の職員が、農作業事故の事例や、事故防止対策などを説明。また、VR（バーチャルリアリティ）ゴーグルを用いた事故の疑似体験も行い、参加者は安全作業への理解を深めました。



VRゴーグルで農作業事故の疑似体験をする参加者

「#あおばな」で県知事と対話



県が主催する県民対話集会「#あおばな」が、6月11日に板柳支店で開かれ、宮下宗一郎知事と板柳園芸部会の部会員が今後の地域農業について意見を交わしました。

#あおばなは、宮下知事が県民の声を聞き、県政に反映させることが目的で、今回は「持続可能な農業生産と担い手確保」をテーマに話し合いました。部会員は、雪害の現状や、物価・燃料高騰が生産に与えている影響などを知事に伝えました。



宮下知事と対話する部会員

6/18



よいしょ!大きなニンニクを掘り取れ

十和田市西小学校の3年生14人は、畠山聖さん、恵美さん夫妻のニンニクほ場で掘り取り体験をしました。児童は収穫機を使った掘り取りを見学した後、大きなニンニクを求めてほ場をじっくりと選定。「茎の太さ」をヒントに、目当てのニンニクを見つけ、力いっぱい掘り取っていました。

杉山采方子(さほこ)さんは「大きなカブを取るみたいでとても楽しかった。教えてもらったニンニク揚げやカレーに入れて食べてみたい」と笑顔を見せていました。

畠山さん夫妻は「農業に前向きな子どもたちでうれしい。授業を通して食を作ることの重要性や楽しさを知るきっかけにしてほしい」とほほ笑んでいました。



▲ニンニク掘り体験をした児童ら

6/9



地域一体で 農産物盗難ゼロへ

当JAはニンニクの収穫時期に合わせて、農家と警察、防犯指導隊員と結束し畑のパトロールを強化しました。パトロールは管内で大規模なニンニク盗難があったことをきっかけに始まり、今年で17年目になります。始動以降、農機具やナガイモ支柱などの盗難被害はあったものの、農産物の大規模被害は確認されていません。

本店で開いた出勤式にはパトロール隊ら60人が集結。十和田警察署の中村彰宏署長は「被害の減少は徹底した防犯と緊密な連携によるものだ」とし、一層結束力を高めるよう声をあげました。



▲出勤宣言をする十和田地区防犯指導隊の米沼寛彰隊長

6/24



ピーマン目ぞろえ・栽培講習会で有利販売へ

藤坂支店管内で夏秋ピーマンの出荷目ぞろえ会・現地講習会を開き、集まった生産農家ら40人は品質や大きさの基準などを確認しました。さらに、JAは今年度から新たな取り組みとして規格外品の委託買取販売が決定したことを報告。取引先業者との信頼関係を深め有利販売につなげるため、品質管理に注意するよう呼びかけました。

その後、ピーマンほ場で行われた栽培講習会で、主な減収要因である赤果や尻腐れ果の対策についてタキイ種苗株式会社の担当者が説明。適切な管理は草勢診断からとし、開花の位置や新葉の縮れ、分枝の停滞などを確認するほか、かん水や追肥を適期に行うよう呼び掛けていました。



▲ピーマンの栽培管理を確認し合う生産農家

▲ピーマンの出荷規格を確認する生産農家ら

6/3 スマホ教室 基礎から応用学ぶ



使い方を学ぶ参加者

J A ゆうき青森は、本店と野辺地支店でスマホ教室を開き、2日と3日の2日間で12人が参加した。

ドコモショップ三沢店の職員が講師を務めた。カメラの使い方などを学ぶ「入門編」、インターネットで検索する方法や災害時のスマホ活用方法などを学ぶ「基本・応用編」の2部構成でスマホの使い方を伝授した。

参加者は、「面白かった。初めて知る機能もあり楽しく学べた」「大変役に立つ講座だった。随時開催してほしい」と笑顔で語った。

6/3 ながいも洗浄検査 出荷規格確認



規格を確認する役員ら

J A ゆうき青森野菜振興会ながいも部会では、六ヶ所営農センター及び本所営農センターながいも洗浄選果施設にて、ながいも部会役員が洗浄選果確認検査を実施した。確認検査は春・秋の年2回行われ、洗浄状況及び選別されたながいもの出荷規格を統一する目的で行っている。

ながいも部会長の甲地優志さんは「洗浄・選別ともに問題はなかった。今後は選果効率の向上に努めてもらいたい。また、本所・六ヶ所の両施設でしっかりと規格統一されたながいもを出荷し市場や消費者からゆうき青森ブランドの信頼を得たい。」と話した。

6/11 キャベツ講習会 栽培管理学ぶ



講師の話に耳をかたむける生産者

J A ゆうき青森野菜振興会キャベツ部会は、東北町の園場で栽培講習会を開催した。生産者7人が参加し、品種の特性に合わせた栽培方法や収穫時期を確認した。

講師は、輪トーホクの松原裕一郎部長が務め、今年も夏場の高温が予想されており、「積算温度も高くなり、収穫期間は短くなる可能性がある」と指摘。収穫時期が遅れると病気やチップバーンが発生しやすくなるとして、気温に注意しながら収穫作業を進めることを呼び掛けた。

生育は平年に比べ遅れており、7月中旬頃から収穫が始まる予定。





JA共済事業推進大会にて表彰

4月23日にホテル青森で開かれた「JA 共済事業推進大会」のJA自動車共済損害調査サービス優秀組合表彰でJA おいらせと、JA 自動車共済損害調査サービス優秀担当者として本店共済課の松橋隆志さんが優秀担当者として表彰されました。

同大会において JA おいらせでは、「お客様に寄り添う心、笑顔で接する心、そして何より感謝の心を胸に活動し、早期の目標達成と更なるJAおいらせファンの獲得を目指します」と決意表明をしました。



表彰を受ける中屋敷組合長



松橋隆志(写真右)



JAおいらせ杯少年少女スポーツ大会 入賞チームへ米を贈る

三沢市東部北部地区少年スポーツ親睦会は4月26日から2日間、第25回JAおいらせ杯少年少女スポーツ大会を開きました。今大会はスポーツを通じた地域の子どもの健全育成を目的に同親睦会が主催したもので、JAは開催当初から協賛を続けています。

野球の部に6チーム、バレーボールの部に9チームが参加し、おおぞら小学校で野球、バレーボールの試合を行いました。

JAおいらせは選手の活躍と健闘を称え、上位入賞チームへ地元産米「まっしぐら」をプレゼントしました。結果は下記の通りです。

野球の部

優勝 六戸町野球クラブ
準優勝 木崎野ライオンズ
第3位 六ヶ所BBC

バレーボールシニアの部

優勝 きのしたSSV
準優勝 おおぞらVBC
第3位 岡三沢小VBC
三沢VCJ

バレーボールジュニアの部

優勝 きのしたキッズ
準優勝 岡三沢小ジャンプ
第3位 三沢VCJジュニア



ねぎ 葉面散布剤活用し生育促進へ



▲ 説明に耳を傾ける参加者

散布は、予防散布を中心に徹底し、葉枯病の発生軽減を図って、高品質生産に努めてほしいと呼びかけました。

ねぎ専門部は6月2日と3日、管内4ヶ所でねぎ栽培講習会を行いました。このうち、五戸営農センター（東部）で行った講習会では11人が参加しました。

農業普及振興室の木下貴文主幹が講師を務め、定植後の栽培管理と病害虫対策について説明しました。講師は「生育はほぼ平年並み。生育に遅れがみられるほ場では、葉面散布剤を活用し生育促進に努めてほしい」と話しました。

さらに、培土する際には、焼け症状や軟腐病が発生しやすいため、高温時や降雨後には控え、早朝などの涼しい時間帯に行うよう説明しました。また、農業

にんにく 適期収穫を呼びかけ

にんにく専門部は6月4日と5日の2日間、管内15ヶ所で栽培講習会を行いました。このうち、4日に福地野菜出荷場で行った講習会では27人が参加しました。農業普及振興室三戸分室の山下のぞみ主幹が講師を務め、収穫までの管理、収穫適期時期や適切な乾燥方法を確認しました。

講師は「りん球の肥大促進に向けて、葉面散布剤を活用し1枚でも多く生葉数を確保してください。また、ネギコガが発生しているほ場もあるが、収穫時期に向け増加する予想のため対策してください」と説明。さらに、にんにく乾燥チェックリストを参考に乾燥施設を整備する等、適切に管理するよう呼びかけました。



▲ 管理方法を学ぶ参加者

第1回農政対策委員会開催



▲ 講演の様子

より増加しているが、何か計画している活動はあるのか」という質問に対し、「農業事情に応じた講演会等を考えております」と回答し、すべての議案が満場一致で承認されました。

委員会終了後には、東北農政局青森県拠点の若狭一徳副地方参事官を講師に招き、「食料・農業・農村基本計画について」と題し講演を行いました。講師は令和7年4月11日に閣議決定された「新たな食料・農業・農村基本計画」のポイントについて説明。改正基本法の基本理念に基づき、施策の方向性を具体化し、平時からの食料安全保障を実現する観点から、初動5年間で農業の構造転換を集中的に推し進めることを話しました。



7月1日

乾田直播の水田確認



生育状況を確認しながら説明を受ける参加者

水稲部会は、管内2カ所で「乾田直播栽培現地検討会」を開きました。つがる市の佐藤史成さんと五所川原市の今茂さんの農場で開かれた検討会には、生産者合わせて37人が参加。JA全農あおりの担当者から説明を受け、乾田直播による稲の生育状況や除草剤の効果を確認しました。

佐藤さんは「除草体系をしっかり組み、雑草を抑え、収量を確保していきたい」と話しました。

7月9日・10日

中学生がメロン選果を体験



メロンの選果作業を行う片山さん

つがる市立木造中学校の3年生3人が9、10日の両日、木造総合支店で職場体験を行いました。最盛期を迎えたメロンの選果施設で「レノン」の選果作業に挑戦しました。中学生は選果員から指導を受け、コンテナからメロンを取り出し、次々と選果機に乗せていきました。

体験した片山奈保さんは「メロンを優しく置くように気を付けた」と振り返りました。

生徒らは選果作業の他、敷地内にある米施設の見学や、職員に日常業務についての質問をするなどし、JAの仕事内容について学びました。

7月11日

五農生 JA業務を肌で感じる

JAあしよつがるとJAつがるにきたは、県立五所川原農林高校生物生産科の2年生22人を対象に「合同施設見学会」を開きました。地域農業への理解を深めるとともに、就職先としてJAをアピールする機会になっています。

昨年に続き2回目の開催で、同じ生徒を対象とし、よりJAに興味を持ってもらおうと内容を充実させました。少人数での見学体制をとり、グループで若手職員との意見交換を行いました。

生徒らは、メロンやトマトの選果施設など昨年と違う施設を見学する他、金融、共済事業について、実際に使用している出納機や端末などを操作する様子を見ながら担当職員から説明を受けました。若手職員との意見交換会では、4つのグループに両JAから1人ずつ若手職員が加わり、1日の業務スケジュールを紹介したり、実際の求人票を見たりし、就業時間や給与について説明しました。若手職員らは、生徒から「JAを選んだ理由」「仕事でやりがいを感じる時はどんな時か」と聞かれ、体験談を交えながら質問に答えました。参加した生徒は「若手職員の話が参考になった」と感想を話しました。



1日のスケジュールを紹介する若手職員



7
9

「ちゃぐりん」 寄贈

次世代を担う子どもたちに農業・食・自然環境への理解を深めて貰うため、管内36の小学校に、家の光協会が発行する子ども向け雑誌「ちゃぐりん」を毎月提供しています。加えて、1年を通して農業体験学習の時間が長い5年生には、毎年同誌8月号を全員に1冊ずつ寄贈しており、今年は1,270人の5年生に「ちゃぐりん」を寄贈しました。

弘前市立大成小学校で寄贈式を行い、太田専務は「ちゃぐりんを読んで農業の事や食べ物の大切さを学んで欲しい」と呼びかけ、児童一人ひとりに同誌を手渡しました。手にした児童たちは「読むのが楽しみ」などと感想を話しました。



6
22

「農業の魅力発見！」 親子で楽しく収穫体験開催

地域農業や当JAへの関心を高めて貰う事を目的に「農業の魅力発見！」親子で楽しく収穫体験を開催し、6家族総勢18人がトマトの収穫と当JA農産物直売所「四季彩館」で買い物を楽しみました。トマトの収穫体験は、特別栽培トマト部会に所属する佐藤耕一さんのビニールハウスで行い、農家の仕事や特別栽培トマトについて、収穫方法の説明を受けた後、真っ赤に実ったトマトを収穫しました。

収穫後は「四季彩館」に移動し、直販課が用意した特設テント内で、当JA管内で収穫された「はれわたる」のすくい取り体験を行いました。家族ごとにクジを引き、クジに記載された（手で5すくい）や「紙コップで3すくい」など、方法で米をすくいました。最後は、直売所の新鮮な地域の農作物や当JAオリジナル商品などを購入しました。



6
13

ゆつくりウォーク 歩いて巡る旅々開催

JAつがる弘前健康寿命100歳プロジェクト「ゆつくりウォーク」歩いて巡る旅々の第3回目を開催しました。今回は、白神山地の人氣観光スポットの一つ「十二湖」を散策しました。同プロジェクトは、組合員とご家族、地域住民を対象とし、「楽しく歩く・笑って歩く・景色を楽しんで歩く」を基本に、健康寿命の延伸を目指すものです。



参加者は、現地のがイドに同行して買い、コバルトブルーの湖面で有名な「青池」や、「湧きの池」など、神秘的で美しい池を見学しながら、約4キロを2時間かけて歩きました。広葉樹の深い自然林に囲まれ、気持ちの良い森林浴を楽しみました。

清水森ナンバ出荷



今年も清水森ナンバの出荷が始まりました。津軽藩の初代藩主である津軽為信公が京都から持ち帰り、広めたとされており、約400年以上前から栽培されていると伝えられている野菜です。

沢田地区のお母さん方が心を込めて育てた清水森ナンバは、直売所で1袋120円にて出荷しています。

ナンバには、食欲増進や抗菌作用、血行促進効果があり、ビタミンEも含まれます。ナンバ漬けや素焼きで楽しむことができます。これから『林檎の森』の店頭に秋まで並ぶ予定ですので、ぜひこの機会にお買い求めください。



清水森ナンバは、人気商品なので入荷してもあっという間ですよ！

リンゴ放任園の対策



7月23日、五所地区において放任園地の伐採作業が行われました。放任園とは、農地の所有者が後継者不在などの理由により管理が行われなくなった果樹園などを指します。

そのまま放置すると、病害虫の温床となり、鳥獣の住処となることで、周辺のリンゴ畑に支障をきたすため対策を求められています。そのため、五所支会では体を壊して農業を継続出来なくなった園主の代わりにリンゴの木を伐採と抜根を行いました。



病害虫の発生源を防ぎます。

ブルーベリー

親子収穫



7月26日、黒滝にある成田光生さんのブルーベリー畑で、相馬こども園支援センターの利用者親子が参加しました。

昨年も来てくれた2組と初めて参加した3組、合計5組の親子が収穫体験を行いました。

ブルーベリー畑を訪れるのも収穫するのも初めての方や、ヨーグルトに入れて食べさせたいと意気込むママさんなど、みずみずしいブルーベリー収穫を楽しんでいました。成田さんの畑には様々な種類のブルーベリーがあり、色の違いや甘みの強いもの、酸味のあるものを食べ比べながら、カゴいっぱいのお土産をいただきました。



おいしいよと親切に説明する成田さん

わい化栽培研究会

夏期研修



7月25、26日、わい化栽培技術研究会は南部方面で夏期視察研修を実施し、14名の会員が参加しました。

宮農大では、高密度わい化栽培の2年目の苗木と1年目の苗木の成長を観察し、初期管理について学びました。

会員からは昨年大雪による苗木の被害の程度やトレリスの強度に関する質問が寄せられました。また、灌水設備に対する関心が高まり、6月からの高温干ばつを考慮して従来のわい化栽培にも活用できるのではないかとアイデアが提案されるなど、実際の設備を見学したことでのりんご栽培の今後の発展が期待できるようです。



勉強熱心な研究会の皆さん

令和6年産りんご精算報告会



青果部は7月10日、管内4か所で令和6年産りんご精算報告会を開き、JA全体の販売額が143億8696万円（前年比95.4%）となったことを報告しました。

6年産の集荷数量は、花芽不足やふじ系を中心に不受実果が多く見られた影響から、前年を下回る189万3000箱（前年比85.5%）となったことを説明しました。



平賀地区の報告会で挨拶をする奈良事組合長



JA役職員に質問する青年部員

青年部JA役職員と語る会



青年部（古川誠二部長）は7月18日、平川市のゆうネットホール平川でJA役職員と語る会を開きました。

各地区の青年部員15人と、JA役職員24人が出席し、青年部員がJAの各事業や取り組みに関する質問をし、JA役職員が回答することで、青年部とJAが将来に向けて現在の課題と向き合うことができた会となりました。

Aコープ商品を使用した料理教室



女性部みなみ支部は7月28日、本店でAコープ商品を使用した料理教室を開きました。

同支部の女性部員12人が参加し、「五倍酢（穀物酢）」や「ほめられ酢」といったAコープ商品の調味料を使用し、「長芋と鶏むね肉のみそ照り焼き」や「なすときゅうりの旨和え」などを調理しました。

参加した女性部員は「調味料を混ぜて作るだけの調理方法だったので、とても簡単に作れた。お酢は夏バテや熱中症対策に効果的なので、家でも作って夏を乗り切りたい」と話しました。



調理を行う女性部員



完成した料理4品

7/8 鳥獣害対策に電気柵設置

管内でイノシシによる被害が出ていることを受けて、JAでは電気柵設置の実証試験をしています。今年度被害が確認されたのは大深内支店管内の30アールのナガイモほ場で、植えられた種芋がイノシシによって土から掘り返されました。

同ほ場では、JA全農あおもりや当JA職員15人が3メートル間隔に支柱を立てて、電気線をつないで柵を設置。電気線には常時弱い電流が流れており、イノシシが触れると危険を察知して近寄りづらくする仕組みです。

今後は鳥獣害による被害の増加が懸念されているため、JAでは電気柵設置に対する助成を決定しました。(P13・理事会だより参照)



▲電圧を確認するJA職員ら

7/25 キュウリ収穫本格化

管内でキュウリの収穫が本格化してきました。連日の猛暑で変形などが散見されていますが、食味は良好。県内や関東の市場を中心に、ピーク時は日量約6トンを出荷する計画です。

栽培6年目の野村秀幸さんは7月中旬から収穫をスタート。畝間にはワラを敷いて病虫害の予防・保水効果を高めるほか、かん水作業に力を入れています。野村さんは「猛暑と乾燥がどれだけ生育に影響を与えるのか不安。天候は変えられないので、できる管理を徹底し、良品出荷につなげたい」と話していました。



▲キュウリを丁寧に収穫する野村さん

7/17 台湾の中学生とニンジン掘りで交流深める

台湾台北市天母国民中学の生徒や父兄ら30人が東北町の坂本武大さんのニンジンほ場を訪れ、ニンジン掘りの収穫体験をしました。生徒らは坂本さんや集まった青年部員4人、JA職員から掘り取り方法を教わった後、実際に手掘りに挑戦。初めてニンジン掘りをしたという魏承祿さん(13)は「農家さんが汗を流しながらがんばって収穫したものが、食卓に並んでいることを知った。これからは残さずに食べたい」と話していました。

この交流は、同校と同町の東北中学校、上北中学校が国際交流姉妹校を締結していることがきっかけで実現しました。隔年、生徒らは相互に行き来をして交流を深めています。



▲ニンジン掘り体験をした天母国民中学の生徒ら



▲台湾生徒と園い握手を交わす坂本さん

7/1 年金友の会ゲートボール大会開催



ゲートボールを楽しむ参加者

J A ゆうき青森は、七戸町で J A ゆうき青森年金友の会ゲートボール大会を開催した。J A 職員を含む49人が参加し、熱戦を繰り広げた。

大会は、会員同士の交流と健康増進が目的で、毎年開催している。

5人1組で8チームに分かれて、勝ち数や得失点で順位を競い合った。競技の結果、六ヶ所村の「千歳平」が全勝で優勝に輝いた。上位5位には賞品が贈られ、千歳平のメンバーは「勝つことができてよかった」と笑顔で語った。

結果は以下の通り。

▷1位 千歳平(六ヶ所村)▷2位 庄内チーム(六ヶ所村)▷3位 西野チーム(七戸町)▷4位 J A 職員チーム▷5位 ききょう(七戸町)▷6位 フレンドリー(七戸町)▷7位 さわやか(東北町)▷8位 室ノ久保老人クラブ(六ヶ所村)

7/7 トマト出荷進む 最盛期前に説明会



規格を確認する生産者ら

J A ゆうき青森の夏秋トマトの出荷が最盛期を迎えようとしている。春先の残雪により定植作業の遅れがあったが、おおむね順調に生育し、8月上旬ごろから本格的なピークを迎える見込みだ。

J A 野菜振興会トマト部会では、糖度が高く食べ応えのある「りんか409」を中心に25人の生産者が4.15ヘクタールのハウスで栽培する。出荷は11月中旬ごろまで続き、今季は出荷数量328t、販売高は1億円突破を目指す。

出荷最盛期を前に同部会は7日、出荷説明会を開催。生産者や市場関係者ら26人が参加し、出荷基準や栽培管理方法を確認した。

同部会の西野盛孝部会長は「高温障害に注意しながら、今年も販売額1億円突破を目指す」と意気込んだ。

7/8 県民対話集会「#あおばな」開催



宮下知事(左)へ意見を述べる酪農家ら

青森県が主催する県民対話集会「#あおばな」が、東北町の北栄トラクター利用組合で開かれた。宮下知事と若手酪農家9人が今後の酪農事業について意見を交わした。

「#あおばな」は、宮下知事が県内団体や事業者を訪れ、対話を通じて県政に反映させる目的で開かれている。

テーマは「持続可能な酪農経営について」。若手酪農家からは、リンゴのしぼりカスやホクテ残渣を活用した飼料高騰対策の事例や地域の酪農業を守るため後継者育成の取り組みを加速する要望などが挙げられた。

宮下知事は「残渣活用など明るい話題もあった。良質な生産に臨めるように県全体でも取り組みを加速したい」と語った。



長いもの選果施設を見学 上久保小学校

三沢市立上久保小学校三年生は、6月4日に社会科の授業で三沢市谷地頭にあるJAおいらせ長いも洗浄選果施設を訪れ、春掘り長いもの選果作業や施設を見学しました。

JAおいらせ本店販売課の宮古和也係長が施設を案内し、長いもが保管されている貯蔵庫や選果作業について説明しました。児童は、選果作業に使われる機械などの絵を描きながら真剣にメモをとっていました。宮古係長は、児童らに長いもが箱詰めされる前の行程を見せながら、「海外にも出荷している」と説明すると、児童は驚いていました。

施設見学後、会議室へ移動し座学を行いました。児童らは仕事のやりがいや農協の仕事、出荷時期などについて質問を行い、JAや地域農業への理解を深めました。



にんにくの坪掘り調査

JAおいらせやさい推進委員会にんにく部会三沢地区は6月12日から2日間、にんにくの坪掘り調査を行いました。生産者が事前に掘り取ったにんにくを計測調査し、収穫適期を判断しました。生育は平年並みで、三沢地区での収穫は20日以降の見込みとなりました。

JAおいらせ指導課と上北農林水産事務所農業普及振興室三沢分室が市内11ヶ所を回り、生産者延べ34人が参加しました。生産者は畑から掘り取った9株のニンニクを並べ、指導課の担当者らが直径や葉数、穂数などを計測しました。計測結果から総合的に判断し、生産者それぞれに収穫適期を指導しました。



若手職員農業体験

三沢市内にあるJAおいらせにんにく採種園でにんにくの収穫を行いました。今回のにんにく収穫作業には、職員農業体験研修の一環として入組5年目までの若手職員11人が参加し、園場での収穫作業を行いました。

今回収穫したにんにくは、昨年10月に指導課職員と若手職員が植えたもので、参加した職員は「忍耐力や協力することの重要性を学び、それと同時に農家の大変さを学んだ。」と話しました。慣れない作業に汗を流し、農業への理解を深めました。



農家の労力軽減 ドローンで薬剤散布担う



▲ ながいもの散布の様子

五戸地域航空防除協議会は、個別農家の労力を軽減しようとドローンや無人ヘリコプターを使った航空防除を行っています。五戸町管内の27戸のながいもほ場61ヘクタールおよび田んぼ386ヘクタールを今年度は請け負っています。

7月23日の早朝からながいも散布作業を開始し、葉波病、ヤマノイモコガ、アブラムシ類に効果のある

薬剤を散布しました。順次水稻の散布を開始します。

管内のながいもおよび水稻の生育は順調で、気温が高めに推移していることから出穂期は平年より10日ほど早まっています。



▲ 水稻の散布の様子(6月の様子)

ビーマン 整枝のポイント学ぶ

ビーマン専門部五戸支部は7月23日、五戸営農センター管内2ヶ所でビーマン栽培講習会を行いました。このうち、新郷村の生産者ほ場で行った講習会では40人が参加しました。

講師は農業普及振興室の吉田理見技師が務め、「6月以降、高温と乾燥が続いたことで、花落ちや尻腐れ果の発生が目立っていることから、少しでもかん水や葉面散布を行い、草勢の維持に努めてほしい」と話しました。さらに、枝が混みあっているところは、太い枝を残し、風通しを良くし、株元に光が届くように適宜、整枝するのが薬剤の効果をも高め良品生産のポイントであるとししました。また、「カメムシ類が多発しているため、病害虫防除を徹底し、後半の収量、品質確保に努めてほしい」と呼びかけました。

指導員は「高温が続いているため、赤果が発生してくると思われます。積算温度が1,000℃を超えると赤くなると考えられています。日中と夜間の寒暖差があまりないことから、早い段階で赤果が見られると思うため適期収穫をお願いします」と話しました。



▲ 整枝方法を学ぶ参加者

ねぎ 選果しっかりと



▲ おいさつをする堀合支部長

ねぎ専門部八戸支部は7月25日、陸上野菜集出荷予冷施設で講習会および目揃会を行い、45人が参加しました。

堀合支部長は「目揃会は、皆さんが出荷するねぎの品質を一緒にするようにするために行っています。一人でも悪いと市場への評価につながるの、きちんと確認してほしい」とあいさつしました。

講習会では、盛幸弘営農指導員が講師となり、「いずれ発生が多くなることが予想される病気」と題し、白絹病と黒腐菌核病を取り上げ、管内の発生状況、被害の特徴と対策などについて説明しました。講師は「作物の定植前に菌が発生しにくい土壌環境を整え、定植後は作物が菌に感染する前に薬剤をローテーションし防除することが大事です」と呼びかけました。

目揃会では、JA全農あおもりの苜米地勇誠氏が情勢報告、横浜丸中青果社の三戸部良課長が販売状況を報告しました。さらに、三浦義博販売担当は「ねぎが黄色などに変色しているものは軟腐病の可能性があるので箱詰めしないでください。太さや形状など確認し、選果をしっかりと行ってほしい」と話しました。